

東京都交通局  
経営計画2022  
TOEI TRANSPORTATION

令和4年度進捗状況

**令和5年8月**

## 「東京都交通局経営計画 2022」 令和 4 年度進捗状況

交通局では、令和 4 年度から 6 年度までの 3 か年を計画期間とする「東京都交通局経営計画 2022」を令和 4 年 3 月に策定しました。

計画初年度である令和 4 年度は、計画策定後の状況変化にも対応しながら取組を進め、令和 4 年度を到達目標とする全ての取組において、目標を達成しました。

また、財政収支については、全ての事業で計画に掲げた目標を達成しました。

令和 4 年度の主な進捗状況については、以下のとおりです。

### 令和 4 年度の主な進捗状況

#### ■安全・安心の確保

- ・浅草線のホームドアについて、日本橋駅など 4 駅に整備を行ったほか、令和 5 年度までの全駅整備完了に向け、準備工事等を進めました。
- ・「東京都交通局浸水対策施設整備計画」を令和 5 年 2 月に策定したほか、駅出入口 6 か所、通風口 6 か所で浸水対策工事を実施しました。
- ・車内防犯カメラについて、新車導入に合わせ、三田線 4 編成、新宿線 4 編成及び大江戸線 2 編成に車内防犯カメラを設置したほか、既存車両への設置に向けた技術的検証を進めるため、三田線、新宿線及び大江戸線の各 1 編成に車内防犯カメラを先行設置しました。

#### ■質の高いサービスの提供

- ・三田線では、車両更新に合わせて一部の編成を 6 両から 8 両編成に長編成化し、令和 4 年 5 月から運行開始しました。また、新宿線では、令和 4 年度に全編成の 10 両編成化を完了しました。
- ・浅草線日本橋駅で再開発事業との連携によりエレベーターを整備し、バリアフリールートの複数化を進めるとともに、三田線新板橋駅及び連根駅のトイレ改修を完了しました。
- ・バス停留所上屋 9 棟を新設、22 棟を建替え、ベンチ 36 基を整備したほか、次停留所名を表示するモニターを、新車導入に合わせて車内中央の天井にも設置しました。

#### ■東京の発展への貢献

- ・浅草線東銀座駅において、リニューアルに向けた改装工事に着手するとともに、浅草駅では、バリアフリー化された新たな出入口の整備や既存出入口の更新に向けた準備を進めました。
- ・燃料電池バスを新たに 2 両追加導入し、令和 4 年度末時点で国内バス事業者最大の累計 73 両を運用するとともに、バス停留所の上屋や標識柱等に LED 照明を設置するなど、環境負荷の低減に取り組みました。
- ・小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく電車をご利用いただけるよう、子育て応援スペースを都営地下鉄全路線へ拡大し、累計 36 編成導入しました。

#### ■持続可能な経営基盤の確立

- ・局資産を有効活用して安定した収入を確保するため、大門庁舎（浜松町）等の利活用に向けた取組を進めるとともに、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置拡大や駅構内店舗の展開など、広告事業や構内営業を積極的に進めました。

# 1 安全・安心の確保

## ◆ 安全対策の強化

### (1) 安全管理の持続的向上

#### ■ 安全管理体制の強化

- 輸送の安全に係る基本的な姿勢を示した「安全方針」に基づき、2022年度の安全重点施策を策定し、半期ごとに取組状況を確認して継続的な改善を行うことで、PDCAサイクルを適切に機能させ、安全管理体制の更なる強化を図りました。



【安全管理体制のPDCAサイクル】

#### ■ 各種訓練の充実

- 都営地下鉄では、大規模浸水被害を想定した自然災害対応訓練や、大きな地震により列車が脱線したことなどを想定した異常時総合訓練を実施したほか、東京メトロと合同でテロ対策（不審者対応）訓練を実施しました。また、2022年度は電力需給逼迫により広域停電が発生した場合に備え、都営新宿線で電力貯蔵設備を活用した列車走行訓練を実施しました。
- 都営バスでは、テロを想定した情報伝達訓練や災害時を想定したIP無線による一斉通信訓練、各事業所における発電機を活用した停電時対応訓練等を実施しました。



【異常時総合訓練】



【都営地下鉄・東京メトロ合同訓練】

#### ■ 安全に関する教育・指導の徹底

- 都営地下鉄では、職員の異常時対応力の向上を図るため、地下鉄運転シミュレータを活用した安全研修を実施したほか、多機能シミュレータの導入に向けた検討を行いました。
- 都営バスでは、基本動作の徹底と安全意識の向上を図るため、少人数の乗務員によるグループ討議やドライブレコーダー画像を活用した安全研修を実施するとともに、運転訓練車\*<sup>1</sup>による安全教育や教習兼用車\*<sup>2</sup>による運転教育を実施しました。

\*1 運転手の視線、車内の揺れ、前方や側方の距離などを計測する様々なセンサーやカメラを搭載したバス車両

\*2 営業用の車両を研修用にも兼用できるよう補助ブレーキを追加したバス車両

#### ■ バス車両の安全装備の更なる改善

- 雨天時の左方の安全確認をしやすいように、新車の導入に合わせて、97両のバスの前扉に、くもり止めとしてヒーターガラスを導入しました。

## (2) ホーム事故「0」を目指した取組

### ■ 地下鉄駅のホームドア整備

- 浅草線宝町駅、日本橋駅、人形町駅及び東日本橋駅にホームドアを整備し、20 駅中 9 駅で整備を完了しました。
- また、令和 5 年度までの全駅整備完了に向け、準備工事等を進めました。



【日本橋駅に整備したホームドア】

#### 到達目標

**2023 年度** 浅草線整備完了(都営地下鉄全駅整備完了)

### ■ 地下鉄駅におけるホームと車両の段差・隙間の縮小（隙間への転落防止策）

- 三田線三田駅から西巣鴨駅までの駅について、ホーム床の改修工事（かさ上げ・くし状ゴム設置）を進めました。
- また、三田駅への可動ステップ追加設置に向けた準備を進めました。



【可動ステップ】

#### 到達目標

**2023 年度** 三田線三田駅への可動ステップ追加設置完了

**2024 年度** 三田線での対策完了 ※当局管理駅

## ◆ 災害対策等の強化

## (3) 浸水対策の強化

### ■ 浸水対策の強化

#### ① 施設・設備の浸水対策

- 最新の浸水想定に基づく浸水被害の状況等を踏まえ、優先して対策を講じる施設や対策の手法、その工程等を定めた「東京都交通局浸水対策施設整備計画」を 2023 年 2 月に策定しました。
- 駅出入口 6 か所、通風口 6 か所で浸水対策工事を実施しました。

#### 到達目標

**2022 年度** 浸水対策に係る整備計画の策定

到達済

**2024 年度** 対策工事実施(駅出入口 7 か所完了、通風口 20 か所完了) (3 か年合計)

#### ② お客様の安全確保への備え

- 大規模浸水被害を想定した訓練を実施したほか、各駅で「避難確保・浸水防止計画」に基づく訓練を実施しました。

### ③ 早期復旧に向けた対策

- 地下鉄等の車両の浸水回避に向け、避難先や避難の手順を整理するとともに、被災後の早期の運行再開を図るため、復旧時の排水、清掃、点検等の手順を時系列で整理しました。あわせて、「交通局危機管理対策計画（風水害編）」を改定しました。

到達目標

2022 年度 「交通局危機管理対策計画(風水害編)」改定

到達済

## (4) 感染症対策の推進

### ■ 新型コロナウイルス感染症対策の推進

- お客様の安全・安心を確保するため、ガイドライン等に基づきマスクの着用や窓開け等感染症対策を徹底するとともに、感染防止の呼びかけを積極的に行いました。

### ■ 交通局危機管理対策計画（新型インフルエンザ等編）の見直し

- 欠員状況に応じた運行体制や応援体制の整備など、これまでの新型コロナウイルス感染症への対応で得た経験を踏まえ、「東京都交通局 BCP（新型インフルエンザ等編）」を改定しました。

## (5) 首都直下地震への備え

### ■ 地下鉄の早期復旧を図るための耐震対策

- 施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るための更なる耐震対策として、4 駅で地下部の中柱の耐震補強工事を進めました。

到達目標

2024 年度 4 駅補強工事実施(3 か年合計)

## (6) テロ対策等の強化

### ■ テロ対策等の強化

#### ① 地下鉄車内での防犯対策

- 新車導入に合わせ、三田線 4 編成、新宿線 4 編成及び大江戸線 2 編成に車内防犯カメラを設置しました。また、既存車両についても 2024 年度までに設置することとし、技術的検証を進めるため、三田線、新宿線及び大江戸線の各 1 編成に車内防犯カメラを先行設置しました。



【車内防犯カメラ】

到達目標

2024 年度 地下鉄車内防犯カメラ：16 編成へ導入(車両更新分・3 か年合計)

#### ② 異常時対応の強化

- 防護盾等の暴漢対策用具の配備を充実し、これを活用した訓練を警察など関係機関と連携して実施しました。

### ③ サイバーセキュリティ対策

- 多様化、高度化していくサイバー攻撃の脅威に対応するため、警視庁サイバーテロ対策協議会など関係機関と連携し、警戒情報の周知を行うとともに、標的型攻撃メール対策訓練等を実施しました。

## ◆ 安定的な輸送を支える基盤整備

### (7) 施設等の適切な維持・更新

#### ■ 地下鉄構造物の長寿命化

- 浅草線と三田線において、トンネル等の地下鉄構造物の計画的な補修工事を進めたほか、新宿線では工法の検討に向けた試験施工を実施しました。

到達目標

2022年度 新宿線 試験施工実施 **到達済**

#### ■ 地上建築物の計画的な修繕・更新

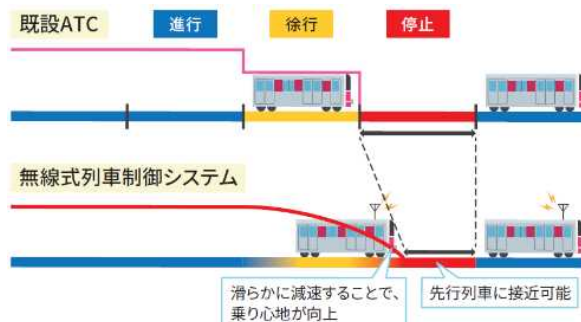
- 都営バス練馬支所整備場、江戸川自動車営業所整備場、馬込車両検修場分区庁舎の修繕工事等を完了しました。

#### ■ 地下鉄駅出入口の老朽化対策

- 西大島駅（出入口1か所）及び日本橋駅（出入口3か所）の修繕工事を完了しました。

#### ■ 大江戸線への無線式列車制御システム（CBTC）の導入

- 大江戸線では、運転効率や乗り心地を一層向上できるように、信号保安装置の更新に合わせて無線式列車制御システム（CBTC）の導入を進めており、2027年度の運用開始に向けて、車両改修工事を開始するとともに、機器の製造を実施しました。



【CBTC 導入イメージ】

到達目標

2027年度 運用開始（予定）

#### ■ 大江戸線の電力供給の更なる安定化

- 大江戸線の電力供給の更なる安定化を図るため、大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設に向けて変電設備工事を開始しました。

到達目標

2025年度 大江戸線浜松町変電所(仮称)竣工(予定)



## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）停留場上屋の更新

- 老朽化している停留場の上屋について、応急対応を実施しました。
- 更新に当たっては、より多くの方に東京さくらトラムへの愛着を持っていただけるよう、事業手法の検討を進めました。

到達目標

2025年度 4 停留場更新完了(予定)

## ■ 日暮里・舎人ライナー駅施設の維持修繕

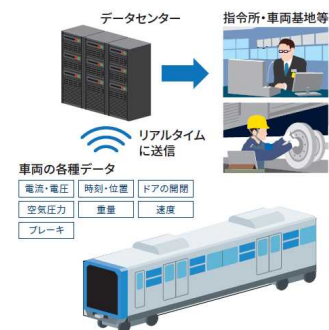
- 熊野前駅など5駅のシャッターや自動ドアの修繕工事を完了しました。

## (8) 維持管理におけるデジタル活用の推進

### ■ 施設等の状態監視の高頻度化

#### ① 三田線への車両情報収集システムの導入

- 三田線の車両更新に合わせ、走行中の車両から各種データ（ブレーキ、速度、混雑状況等）を無線通信により送信することで、指令所や車両基地等の離れた場所でもリアルタイムに車両状態を確認できるシステムを構築し、運用を開始しました。



【車両情報収集システム導入イメージ】

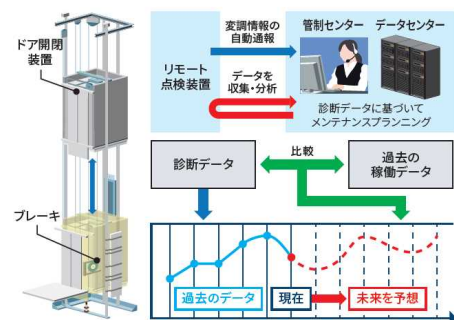
到達目標

2022年度 三田線でのシステム運用開始

到達済

#### ② 新たな技術を活用したエレベーターの維持管理

- 大江戸線都庁前駅等のエレベーターにおいて、遠隔点検システムの実証実験を行いました。



【エレベーターの遠隔点検システム導入イメージ】

#### ③ 通信用蓄電池の遠隔監視システムの導入

- 三田線白金高輪駅の蓄電池について、状態や劣化の兆候などを把握するため、常時、電圧・電流、周囲温度等を計測する遠隔監視システムを導入しました。

## ■ 施設等の点検精度の向上

#### ① 新たな電車線検測手法の導入

- 画像解析等を用いた電車線の新たな検測手法について、研究機関と連携して試験用装置による検証を実施し、連続的に正確な摩耗量を計測できることを確認しました。

## ② AIを活用した転てつ機のメンテナンス

- 転てつ機の監視データを蓄積するデータサーバを構築するとともに、AI解析による故障予兆の把握や点検・更新周期等の最適化に向けた検討を進めました。

## ③ 軌道管理のデジタル化

- レールに関する複数の検査を1台で実施可能なレール計測車の導入に向けて契約を締結しました。

### 到達目標

**2024年度** レール計測車の導入・新システム運用開始

## ④ 地下鉄構造物の維持管理におけるタブレット端末等の導入

- 浅草線及び新宿線でタブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始しました。

### 到達目標

**2024年度** 地下鉄全線でのタブレットによる点検開始

---

## ◆ 安定的な電力供給を支える基盤整備

---

### (9) 安定的な電力供給を支える基盤整備

#### ■ 発電所施設の大規模更新

- 多摩川第一発電所について、更新工事のための実施設計に着手するとともに、多摩川第三発電所について、実施設計を行うため、メーカーへのヒアリング等を実施しました。

### 到達目標

**2027年度** 多摩川第一発電所 大規模更新完了(予定)

**2028年度** 多摩川第三発電所 大規模更新完了(予定)



## 2 質の高いサービスの提供

### ◆ 輸送需要への的確な対応

#### (10) 輸送需要への的確な対応

##### ■ ダイヤの適正化

- 都営地下鉄及び都営バスにおいて、お客様のご利用状況を踏まえ、ダイヤ改正をしました。

##### ■ 地下鉄車両の長編成化

- 三田線については、車両更新に合わせて一部の編成を6両から8両編成に増強し、2022年5月から運行を開始しました。
- 新宿線については、2022年度に全編成の10両編成化を完了しました。



【三田線新型車両】

#### 到達目標

2022年度 三田線 8両編成運行開始

到達済

2022年度 新宿線 全編成10両化

到達済

##### ■ 日暮里・舎人ライナー車両の更新

- 日暮里・舎人ライナーの車両4編成を、座席を全てロングシート化して定員を増やした車両に更新しました。



【日暮里・舎人ライナー車両】

#### 到達目標

2024年度 12編成更新(3か年合計)

##### ■ オフピーク通勤等に向けた取組

###### ① ToKoPoの活用

- 都営交通の会員制ポイントサービス「ToKoPo」を活用し、日暮里・舎人ライナーで「冬の時差Bizキャンペーン」を実施しました。

## ② 混雑予測情報の提供

- 2021年3月より、混雑予測情報を都営交通アプリでお客様に提供しており、三田線の車両更新に合わせて導入した車両情報収集システムを活用し、より多くの混雑データを効率的に収集するとともに、車両から収集した混雑データを都営交通アプリに反映しました。

## ■ 地下鉄12号線（大江戸線）大泉学園町方面への延伸

- 将来の旅客需要の分析や延伸に必要な施設・設備の検討を深めるとともに、関係者と事業化について協議・調整を進めました。

# ◆ 公共交通ネットワークの利便性向上

## (11) 公共交通ネットワークの利便性向上

### ■ 東京の地下鉄サービスの一体化の推進

- 東京メトロと連携し、Tokyo Subway Ticket に新たなサービスを追加するとともに、両地下鉄の公式アプリを介したバスツアー等の予約サービスを開始するなど、地下鉄サービスの一体化に取り組みました。

### ■ 東急新横浜線との直通運転に向けた準備

- 三田線において、2023年3月から東急新横浜線との直通運転を開始しました。

到達目標

2022年度 東急新横浜線との直通運転開始

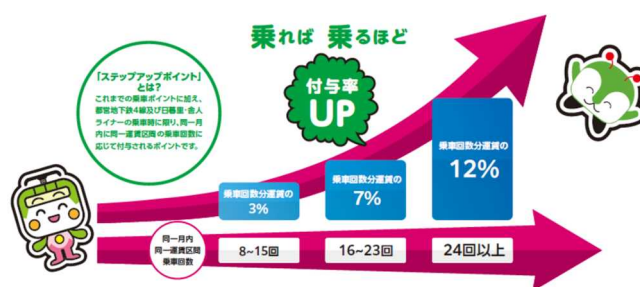
到達済

### ■ 魅力的な企画乗車券の販売

- Tokyo Subway Ticket について、観光施設や体験メニューを自由に組み合わせてオリジナルプランを作成できる販売サービスを開始するなど、更なる利便性の向上を図りました。

### ■ ToKoPo の魅力向上

- 都営交通の利用者の拡大を図るとともに、様々な利用機会を創出していくため、乗れば乗るほどポイント付与率がアップする新たなポイントサービス「ToKoPo ステップアップボーナス」を2023年4月1日から開始することとしたほか、ポイントをプレゼントする入会キャンペーンなどを行いました。



【ポイント付与イメージ】

到達目標

2030年度 会員数 20万人(予定)

## ■ MaaS の推進

- 青梅・奥多摩エリアでの観光型 MaaS 実施に協力したほか、東京メトロと連携し、東京メトロ及び都営交通の公式アプリを介して「人力車・水上タクシー」「はとバスツアー」の利用予約ができるサービスを開始しました。

## ◆ 便利で快適な移動空間の創出

### (12) 駅空間の質的向上

#### ■ バリアフリールートの充実

- 浅草線日本橋駅で再開発事業との連携によりエレベーターを整備し、バリアフリールートの複数化を進めました。

#### 到達目標

**2024 年度** エレベーター6 駅整備(3 か年合計)

#### ■ トイレの改修

- 三田線新板橋駅及び蓮根駅のトイレを改修し、機能性と清潔感を備えたトイレにグレードアップしました。

#### 到達目標

**2024 年度** 9 か所改修(3 か年合計)

#### ■ 地下鉄駅におけるホームと車両の段差・隙間の縮小(車いす利用者の単独乗降に向けた環境整備)

- 三田線三田駅から西巢鴨駅までの駅について、ホーム床の改修工事(かさ上げ・くし状ゴム設置)を進めました。

#### 到達目標

**2024 年度** 三田線での対策完了 ※当局管理駅

### (13) 地下鉄車両の快適性向上

#### ■ 人にやさしい地下鉄車両の導入

- 三田線 4 編成、新宿線 4 編成及び大江戸線 2 編成の車両の更新に当たり、フリースペースの設置など、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた「人にやさしい車両」を導入しました。



【フリースペース】

#### 到達目標

**2024 年度** 三田線 4 編成、新宿線 4 編成、大江戸線 8 編成 (3 か年合計)

■ 大江戸線の車内騒音低減

- 曲線走行時の車内騒音が低減できる操舵台車を大江戸線に試験導入するための仕様を検討しました。

**到達目標** 2024年度 操舵台車の試験導入

(14) バスの快適性・利便性向上

■ 停留所上屋・ベンチの整備

- バス停留所上屋9棟を新設、22棟を建替えたほか、ベンチを36基整備しました。

**到達目標** 2024年度 上屋60棟整備、ベンチ60基整備（3か年合計）

■ バス車内における案内サービスの充実

- 新車99両の導入に合わせて、車内中央の天井部にも次停留所名を表示するモニターを設置しました。



【バス車内中央の天井に設置したモニター】

**到達目標** 2024年度 240基設置(3か年合計)

◆ お客様のニーズに応えたサービスの展開

(15) 案内サインや情報提供の充実

■ 地下鉄駅の案内サインの改修

- 浅草線中延駅など4駅の案内サインを改修しました。



【案内サイン（左：改修前、右：改修後）】

**到達目標** 2026年度 全駅完了(予定) ※当局管理駅

■ デジタル技術を活用した案内・情報提供

① ロボットコンシェルジュ等の活用

- 大江戸線新宿西口駅及び浅草線新橋駅に導入しているロボットコンシェルジュの運用状況の検証を行いました。

## ② 業務用掲示板等のデジタル化

- 5Gを活用したAIサイネージによる効果的な情報発信の有効性を検証するため、都庁前駅で業務用掲示板のデジタル化の実証実験を実施しました。

## ③ スマートフォンを活用した移動支援

- 通行の安全性に配慮しつつ、お客様が駅構内から目的地へスムーズな移動ができるよう、都庁前駅でスマートフォンを活用したナビゲーション技術について検証するとともに、非接触によるエレベーターの呼び出し機能の実証実験を実施し、プログラム調整及びシステム改善を図りました。

## (16) 新たな駅サービスの展開

### ■ 定期券WEB予約サービスの導入

- これまで定期券発売所でしか購入できなかった通学定期券を都営地下鉄の全ての駅で購入できるよう、WEB予約サービス開始に向けたシステム開発に着手するなど準備を進めました。

到達目標

2023年度 定期券WEB予約サービスの運用開始

### ■ デジタル技術を活用した駅サービスの推進

#### ① 地下駅での5G環境の実装に向けた取組

- 大江戸線都庁前駅構内において、民間事業者と協力し、「インフラシェアリング方式」による5G環境を全国で初めて地下鉄駅構内に整備するとともに、AIカメラの映像解析による駅係員の接客サービスへの活用等について実証実験を実施しました。

到達目標

2022年度 都庁前駅での実証実験

到達済

#### ② 駅業務へのロボットの活用検討

- 清掃など様々な駅業務へのロボットの活用について調査及び検討を進めました。

## (17) お客様ニーズに即した駅構内サービスの展開

### ■ お客様ニーズに即した駅構内サービスの展開

- モバイルバッテリーレンタルスタンドを三田線白山駅、新宿線岩本町駅及び大江戸線麻布十番駅に設置するなど、お客様ニーズに即したサービスの展開を図りました。

## (18) 多角的な広報の展開

### ■ 多角的な広報の展開

- 広報誌やWEB、SNSなど様々なツールを活用しながら都営交通の取組やイベント、沿線に関する情報を発信しました。
- 外国人向け広報としてFacebookやInstagramによる情報発信を行ったほか、「TOKYO UP DATES」や「Catch Asia! Global Media Network」、東京都公式Twitter (@Tokyo Gov)などを活用した情報発信を行いました。

## ◆ サービス品質の持続的向上

### (19) お客様の視点に立ったサービスの提供

#### ■ サービス向上策の検討、実施

- 職員の接客や施設の現状など、各サービスのレベルを調査・評価する「都営交通モニター制度」を活用し、幅広い世代からご意見をいただき、サービス向上策を検討、実施しました。
- サービス推進強化月間（10月）を設定し、重点項目を定めて各職場においてサービス推進活動に取り組みました。また、「交通局サービス推進発表会」や研修を実施し、組織全体のサービスレベルの向上を図りました。

#### ■ 多様なニーズを踏まえた接遇の実施

- 職員の対応力向上を図るため、英会話研修、障害者対応研修、認知症サポーター養成研修等を実施するとともに、サービス介助士の資格取得を進めました。

### (20) 公共交通機関を気持ち良くご利用いただくための取組

#### ■ 誰もが快適にご利用いただくための取組

- 歩きスマホ等をテーマにしたマナーポスターやマナー動画を作成し、駅や車内モニター、ホームページでPRを行うとともに、都内の小学4年生を対象に「楽しく乗ろう！交通マナーブック」を作成・配布しました。



【マナーポスター】



【交通マナーブック】



### 3 東京の発展への貢献

#### ◆ まちづくりとの連携

##### (21) 浅草線のリニューアル・プロジェクト

###### ■ 駅構内の改装

- 五反田駅など3駅で設計を開始し、東銀座駅では改装工事に着手しました。

###### 到達目標

2024年度 東銀座駅改装完了

###### ■ 駅施設の大規模改良

###### ① 浅草駅出入口の新設・更新

- バリアフリー化された新たな出入口の整備に向けた協議を進めるとともに、既存出入口の更新に向けて、代替となる出入口整備の準備を進めました。

###### ② 高輪台駅のエレベーター新設

- 高輪台駅について、周辺街路整備事業との調整を図りながら、ホームとコンコースとの間のエレベーター整備に向け、関係機関との協議や設計等を進めました。

###### ③ 日本橋駅の新改札・地下連絡通路整備

- 日本橋駅について、駅周辺の再開発事業者と協力しながら、新たな改札口の設置のほか、相対式ホームを繋ぐ地下連絡通路やエレベーター等の更なる整備に関する工事に着手しました。

##### (22) まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

###### ■ 泉岳寺駅の大規模改良

- 浅草線泉岳寺駅について、ホームの拡幅やコンコースの拡張、エレベーターの増設など大規模改良に向け、準備工事を進めました。

###### 到達目標

2027年度 拡幅ホーム供用開始(予定)

##### (23) 民間事業者等と連携した新宿駅西南口地区の再編

###### ■ 民間事業者等と連携した新宿駅西南口地区の再編

- 「新宿駅西南口地区開発計画」に合わせて、老朽化したミヤコ新宿ビルの建替えに関する関係者協議を進めました。

##### (24) 5G等を活用したまちづくりへの貢献

###### ■ アセット開放を通じた5G整備への協力

- 5Gアンテナ基地局の設置促進に向け、保有するアセット(資産)の公開や関係者との調整を行いました。

## ■ バスの自動運転技術等の検証

- 自動運転に関するシンポジウム等に参加し、試乗や情報収集を行いました。

## ◆ 沿線地域との連携

### (25) 多様な主体との連携による沿線地域活性化

#### ■ 多様な主体との連携による沿線地域活性化

- 「東京さくらトラム×沿線飲食店コラボレーション企画」のほか、様々なタイアップイベントを実施するなど、沿線地域の活性化に向けた取組を推進しました。



【東京さくらトラム×沿線飲食店コラボレーション企画】



【出版社とタイアップしたクイズラリー】

#### ■ 都営交通オリジナルショップ（仮称）の開設

- 店舗運営事業者を公募により決定したほか、改修工事の設計を完了するなど、都営交通オリジナルショップ（仮称）の新宿線市ヶ谷駅での開設に向けた準備を進めました。

到達目標

2023年度 都営交通オリジナルショップ(仮称)開設

### (26) 発電所立地地域への貢献

#### ■ 発電所立地地域への貢献

- 再生可能エネルギーPR館「エコっと白丸」の開館1周年記念イベントを実施したほか、白丸調整池ダム及び多摩川第三発電所の運用開始60周年記念イベントを実施しました。また、交通局111周年記念事業で実施したデジタルスタンプラリーの開催に合わせて、周辺施設などのおすすめスポットを紹介しました。



【60周年記念に配布したカードデザイン】

## ◆ 持続可能な社会の実現への貢献

### (27) 環境に配慮したバス車両の導入

#### ■ バスのZEV化の推進

- 燃料電池バスを新たに2両追加導入し、2022年度末時点で国内バス事業者最大の累計73両を運用しています。
- 更なるZEV化を進めるため、営業所内への水素ステーション整備について検討を進めたほか、EVバスの導入に向け、国内外のメーカーに開発動向をヒアリングするなど情報収集を行うとともに、国に対して国内メーカーの開発支援を働きかけました。



【燃料電池バス】

#### 到達目標

2024年度 燃料電池バス 累計80両導入

#### ■ 低公害バス車両の導入

- 更新したディーゼル車両97両は、全て最新の排出ガス規制に適合した車両とし、窒素酸化物（NOx）・粒子状物質（PM）等の削減に努めました。

### (28) 省エネの推進と再生可能エネルギーの導入拡大

#### ■ LED照明の導入拡大

##### ① バス停留所へのLED照明の設置拡大

- バス停留所上屋や標識柱の更新等に合わせ、上屋31棟及び標識柱100基の照明をLED化しました。

#### 到達目標

2024年度 上屋：60棟(3か年合計)  
標識柱：300基(3か年合計)

##### ② 地下鉄駅等のLED化

- 浅草線5駅の照明並びに新宿線13駅及び三田線20駅の出入口案内サインをLED化しました。

#### 到達目標

2026年度 出入口案内サイン整備完了(予定) ※当局管理駅  
2027年度 駅照明LED化完了(予定)

##### ③ 庁舎・営業所等のLED化

- 江戸川自動車営業所整備場の大規模改修に合わせ、照明をLED化しました。

#### ■ 省エネ運転の促進

- バスの運転状況や燃料消費量を記録するエコドライブ用機器の活用により、省エネ運転の促進を図り、燃料消費の抑制に努めました。

## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）への再生可能エネルギーの導入

- 東京さくらトラムの運行に使用している電力への再生可能エネルギー導入に向け、調達方法の検討を行いました。

## ■ 庁舎への太陽光発電設備の設置

- 大島庁舎及び都営バス臨海支所の屋上への太陽光発電設備の設置に向け、工事を進めました。

## ■ 「東京産水力発電の環境価値」の活用

- 2024年度の契約更新に向け、仕様等の検討を進めました。

## (29) 公共交通の利用促進等による環境負荷の低減

### ■ 環境 PR による都営交通の利用促進

- 都営交通の環境負荷低減に資する取組や公共交通の環境優位性を、ポスターや車内モニターを活用し、積極的に PR しました。

### ■ ToKoPo を活用した取組

- ロハスフェスタ東京 2022 に来場した ToKoPo 会員にポイントを付与するキャンペーンを実施しました。

### ■ 自転車シェアリングとの連携

- 地下鉄駅 10 駅で、近隣にあるサイクルポートの設置場所を案内するピクトグラムを掲出しました。



【サイクルポートを案内するピクトグラム】

### ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）の軌道緑化

- これまでの実証実験等を通じて得られた費用面等の課題について引き続き検討するとともに、設置している緑化器材の維持管理を行いました。

---

## ◆ 福祉施策への貢献

---

### (30) 福祉施策への貢献

#### ■ 福祉インフラ整備への協力

- 都営バス大塚支所跡地で保育所を併設した建物が竣工するなど、局有地の貸付を通じて保育施設整備に協力しました。また、保育所整備等に活用可能な局有地の洗い出しを行い、「とうきょう保育ほうれんそう\*1」を通じて、区市に候補地の情報を提供しました。

\*1 保育事業者が都有地を活用して保育所開設を希望する場合など、都有地に関する問合せ、活用の提案等を受け付ける窓口

## ■ 子育て応援スペースの導入拡大

- 小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく電車をご利用いただけるよう、子育て応援スペースを都営地下鉄全路線へ拡大し、累計36編成導入しました。
- また、都営地下鉄全路線への導入を記念して、浅草線5500形の子育て応援スペースで絵本の読み聞かせイベントを実施しました。



【絵本の読み聞かせイベント】

## 到達目標

2024年度 累計 71 編成導入

## ■ ヘルプマークの普及への協力

- 都営地下鉄各駅や自動車営業所等でヘルプマークの配布やステッカー・ポスターの掲出を行いました。

## ◆ 都政情報などの発信等への協力

### (31) 都政情報などの発信等への協力

#### ■ 局媒体を活用した都政情報等の発信

- 都営地下鉄や都営バスの車内液晶モニター等を活用し、都政に関する情報や他の自治体の観光案内等の発信に協力しました。



【地下鉄車内の液晶モニター】

#### ■ オープンデータの推進

- 公共交通オープンデータセンターや、東京都オープンデータカタログサイトを通じて、公共性の高い都営交通のデータを提供しました。



## 4 持続可能な経営基盤の確立

### ◆ 関連事業の強化

#### (32) 関連事業の強化

##### ■ 資産の利活用

- 大門庁舎を事業区域に含む浜松町二丁目地区市街地再開発事業について、施設建築物等の整備工事を継続して進めたほか、竣工後の利活用について検討しました。
- 都営バス新宿支所を事業区域に含む西新宿三丁目西地区市街地再開発事業について、関係者協議等を進め、再開発組合の設立認可を受けました。

##### 到達目標

2025年度 大門庁舎（浜松町） 利活用開始(予定)

2029年度以降 都営バス新宿支所 利活用開始(予定)

##### ■ 広告事業の積極的展開

- 車両更新に合わせて、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージの設置を拡大するとともに、新たに燃料電池バスのラッピングバス広告の販売に向けた準備を進めました。
- 大江戸線月島駅において、既設の業務掲示板の配置見直しにより新たに広告スペースを創出し、販売を開始しました。
- 広告板が設置されていないバス停留所上屋3棟に広告板を試行設置しました。



【広告付バス停留所上屋】

##### ■ お客様ニーズに即した構内店舗等の展開

- 積極的な店舗誘致を行い、浅草線日本橋駅、五反田駅、新橋駅、新宿線本八幡駅及び日暮里・舎人ライナー日暮里駅で新たな店舗がオープンしました。
- 都営交通オリジナルショップ（仮称）の新宿線市ヶ谷駅での開設に向けた準備を進めました。



【五反田駅の新店舗】



【本八幡駅の新店舗】

##### ■ 通信事業の推進

- 地下鉄駅空間への5G環境の整備に向け、関係機関との協議を進めたほか、光ファイバーケーブルの賃貸事業について、通信事業者に積極的な営業活動を行うなど、事業の推進に努めました。



---

## ◆ 事業運営を支える人材の確保と育成

---

### (33) 事業運営を支える人材の確保と育成

#### ■ 運輸系職員の人材確保

- 交通局と関連団体とで合同採用説明会を開催したほか、人材を安定的に確保するため、全職種においてWEBセミナーを活用したPRを実施するとともに、WEB申込やWEB面接などICTを活用した採用選考を実施しました。

#### ■ 人材育成機能の強化

- 職員一人ひとりの能力開発とキャリアプランの形成を図るため作成した「交通局人材育成ビジョン」を職員に周知するとともに、各現場の実務の中核を担う職員の適正な選抜とベテラン層の更なる活用の観点から必要な制度の見直しを進めるため、現場職員や現場所属長との意見交換を実施しました。

#### ■ 職務に関する知識・技術の継承

- 職員の研修について、オンラインツールも活用しながら、計画的に実施するとともに、各職場内での研修やOJTの充実等により、ベテラン職員が培ってきた技術やノウハウの継承を進めています。
- 保守職員を対象に、外部の技術専門機関等を活用した専門研修を実施するとともに、電気や保線等の各職場に設置している模擬実習設備を活用した実践的な研修・訓練を行いました。
- グループ一体となって人材の確保・育成を進めるため、関連団体から局への研修生の受入れに加え、新たに局から団体への研修派遣を実施しました。

---

## ◆ 全ての職員が活躍できる職場環境づくり

---

### (34) ダイバーシティの推進

#### ■ ダイバーシティの推進

- 職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現に向けて、20時完全消灯日を設定し、超過勤務縮減を図るとともに、テレワークの制度改正に伴い「テレワーク推進ガイドブック」等を改定・周知しました。
- 浅草線泉岳寺乗務区を事業所における短時間勤務のモデル職場として選定し、取組内容や課題等を検証したほか、仕事と育児との両立をテーマにした職員座談会やダイバーシティ&インクルージョンをテーマにした講演を職員向けに実施するなど、誰もが働きやすい職場環境の実現に向けた取組を進めました。

### (35) コンプライアンスの推進

#### ■ コンプライアンスの推進

- 職員一人ひとりが法令等を遵守し、高い規範意識を持ちながら業務を常に見つめ直し、信頼され支持される都営交通を実現できるよう、コンプライアンス研修を実施したほか、コンプライアンス推進運動や飲酒事故防止運動、コンプライアンス通信の発行等の各種取組を実施しました。

## (36) 職員の健康管理の推進

### ■ 職員の健康管理の推進

- 各職場で健康なんでも相談やストレスチェック、新任・転入管理監督者向けのメンタルヘルス研修等を実施しました。
- 対象の乗務員に SAS（睡眠時無呼吸症候群）検診及び脳 MRI 健診を実施しました。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用や手指消毒等の啓発、産業医による講話や新規採用職員に対する感染防止対策研修、オンラインによる服薬診断を実施しました。

---

## ◆ 事業運営を支える執行体制の構築

---

## (37) 効率的・効果的な事業運営の推進

### ■ デジタル技術を活用した業務環境の整備

- 新たなデジタル環境の整備に向けて、基本構想や要件定義を行ったほか、業務アプリ構築クラウドサービスの使用を全事業所に拡大しました。

到達目標

2025 年度 新たなデジタル環境の運用開始(予定)

### ■ 内部管理事務の効率化

- 旅費や給与等の庶務事務の電子化に向けて、導入を予定しているシステムの各種検証や一部職場での試験運用を行い、課題の洗い出しと導入に向けた改善を進めました。

到達目標

2024 年度 全職場での運用開始

### ■ 地下鉄の定期券発売業務の見直し

- これまで定期券発売所でしか購入できなかった通学定期券を都営地下鉄の全ての駅で購入できるよう、WEB 予約サービス開始に向けたシステム開発に着手するなど準備を進めました。あわせて、利用実績を踏まえ、2022 年 12 月に日比谷定期券発売所を廃止しました。

### ■ デジタル技術を活用したバスの乗降調査方法の検討

- デジタル技術を活用したバスの乗降調査方法について、人物認証や券面判定に関する実証実験を行いました。

### ■ 維持管理におけるデジタル活用の推進

- 三田線白金高輪駅の蓄電池について、状態や劣化の兆候などを把握する遠隔監視システムを導入するなど、施設等の状態監視の高頻度化を進めるとともに、浅草線及び新宿線でタブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始するなど、施設等の点検精度の向上を図りました。

#### ■ 不断の業務改善への取組

- 自ら業務を改善する組織風土を醸成するため、職員の提案により実施した優れた取組を表彰したほか、技術発表会を開催しました。

### (38) 組織の見直しによる執行体制の再構築

#### ■ 組織の見直しによる執行体制の再構築

- ZEV 化の推進や安全管理体制の強化等の局課題に対応する執行体制の整備を図りました。

### (39) 体系的なリスクマネジメントの推進

#### ■ 体系的なリスクマネジメントの推進

- 各部署における様々なリスクを網羅的に洗い出した上で、取組計画を策定し、「リスクマネジメント委員会」により定期的に取り組状況の確認を行うことで、体系的に進捗管理や改善を実施しました。

### (40) グループ経営の推進

#### ■ グループ経営の推進

- 局が保有する地上建物の工事監督補助業務を新たに政策連携団体に委託するなど、グループ総体として最大の経営効果を発揮するよう努めました。
- グループ一体となって人材の確保・育成を進めるため、関連団体から局への研修生の受入れに加え、新たに局から団体への研修派遣を実施しました。
- 政策連携団体におけるガバナンスの向上に向けて、経営課題等について定期的に意見交換を実施しました。